

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7440-1
電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30 円

2008年 11 月 20 日
第 308 号

愛のレリーフ

理事長 稲松義人

小羊学園のときより少し遠くなりましたが、三方原スクエアからの方が聖隷クリストファー高校の七階建の校舎がよく見えます。スクエアから北へ約二百メートル、高校の正面玄関の左に足立愛子さんの記念碑があります。足立愛子さんは、一九六六年四月に看護科の高校として開学した聖隷学園高校（現在の聖隷クリストファー高校）の一期生の中で一人だけ小羊学園に就職されました。

彼女の名前を初めて知られた方に、簡単に愛子さんのエピソードをご紹介します。准看護婦として愛子さんが小羊学園に着任した翌日に、小羊学園の園児たちから赤痢菌が見つかります。法定伝染病ですが、重い障害の子どもたちであったため、病院に入院するのではなく、小羊学園の園舎が臨時の隔離病舎となり、そこで働く職員もまた、厳しく管理された中で極度に緊張感のある勤務を強いられることになりました。そんな中、足立愛子さんは五〇日働いたところで、くも膜下出血で倒れ、近くの聖隷三方原病院に緊急入院することになります。病院のベッドで意識混濁の状態で、愛子さんは起き上がり、

周囲にいる病院のスタッフや家族、小羊学園の職員を小羊学園のこどもたちと錯覚して、お世話をするように手を取り、優しく声を掛けたというのです。本人も意識しない中、小羊学園のこどもたちに対する献身的な思いを披瀝することになった一八歳の愛子さんの姿に、そこにいた人たちは大きな驚きと深い感動を受けたのでした。

愛子さんは、数年の療養生活の後、他界されることになりましたが、愛子さんの同窓生たちを中心に集められた治療のための募金によって、愛子さんの記念碑が作られ、母校の聖隷学園高校に建てられたのです。これが愛のレリーフです。作者は、浜松在住の有名な彫刻家水野欣三郎氏でしたが、私自身は、愛子さんの記念碑が建てられた年に小羊学園の職員になりましたので、愛子さんも水野氏のこと、当時の園長山浦俊治氏の文章でしか知りません。

九月のある日、今は故人となられた水野欣三郎氏のお孫さんという方が、突然小羊学園を訪ねて来られました。「十月に浜松市立美術館で水野欣三郎展をすることになり、作品を整理しているときに、詳細不明の作品がでてきた。あちこち調べていると、小羊学園に関係のあるものらしいことが分かったのもつてきた。よければ差し上げたい」というお申し出でした。それはまさしく愛のレリーフの雛型でした。たぶん、これをもとに記念碑が作られ

たのだろうと推察され、小羊学園と聖隷クリストファー高校にとってはとても貴重なものです。

小羊学園が改築のため創立の地から移転し、新しい歩みをはじめようとするこの時期に、予期せぬプレゼントとなりました。三方原スクエアの定礎板に、愛子さんのエピソードが「愛子伝説」という見出しで収められている山浦俊治氏の著書名である「この子らは光栄を異にす」という言葉を入れたのも、創立の心を忘れたくないという思いからです。文字通り献身的に子どもたちの支援をした足立愛子さんを記念する「愛のレリーフ」を思い出させてくれた今回のプレゼントは、新しい歩みを始めようとする私たちへの、神さまからのメッセージのような気がしています。時代は巡っても、小羊学園で働いてきた先輩たちの思いをこれからも継承していきたいと思っています。

それは、小さいときから大きなハンディをもって精一杯生きている人たちを中心にして、小羊学園がずっと歩んできたということだろうと思います。この愛のレリーフの雛型は、しばらく三方原スクエアに展示させていただき、その後は、聖隷歴史資料館に寄贈したいと思っています。そして、私たちもまた、愛子さんのエピソードを文字通り「愛子伝説」として、語りついでいくことができるような毎日の実践をしたいと思っています。

通所施設の秋の一泊旅行

マルカート、 東京デイズニー ランドに行く



マルカートが開設されて四年目になります。今年初めて利用者一九名を二班に分けてマルカートの一泊旅行を実施しました。第一班は九月、第二班は一〇月に、行き先は両方とも東京デイズニーランドと葛西臨海公園の水族館でした。

観光会社にバスを手配してもらい、浜松を九時頃出発し、東京デイズニーランドへ向かいました。予定よりも少し早く到着し、バスを降りると目の前に大きく、青い大きなお城のようなホテルが現れ、みんなの期待が大きく膨らみました。入場ゲートをくぐると、ミッキーマウスの形をした色鮮やかな花壇があちらこちらにあり、たくさんデイズニーのキャラクターたちが大勢でお出迎え。みんな一気にデイズニーの世界へ取り込まれていきました。さっそく、ピーターパンやウェンディたちと一緒にニッコリ「はい、チーズ」。しっかり記念写真を撮りました。大勢のお客さんにまぎれて迷子にならないように、みんなしっかり手をつないで、

テーマパークの中を散策しました。途中でピノキオや白雪姫の小人などのキャラクターに出会い、じっと見とれたり、握手をしてもらったり、デイズニーランドの雰囲気を楽しみました。

最初のアトラクションは、車椅子のまま楽しめる「蒸気船マークトゥエイン号」でのゆっくりクルーズ班と、冒険へ出かける「ジャングルクルーズ」班の二つに分かれました。ジャングルクルーズは、入り口から薄暗く、何かが起こりそうな雰囲気です。「僕乗らない、これいいよ。」と尻込みする人も出てきました。何とかみんなで一緒に



乗り込んで探検へ出発しました。水しぶきを避けながら、船が進むにつれて緊張した顔がほぐれてきました。船長の「原住民の矢が飛んでくるよ！体を伏せて！」の号令に、右へ左へ矢を避けながら無事に難所を通過し、最後にはみんな笑顔で船を下りました。

その後、ゆったりクルーズ班と合流し、「スモール・ワールド」で世界一周の旅をゆったりと楽しみました。次にミッキーハウス・レビュー」では、ミッキーとその仲間たちと楽しい音楽を楽しみました。また、スペシャルイベントの「ハロウィンパレード」も見ました。

夕食は、園内のレストラン「グランマ・サラ」でチキンとシーフードのピラフ、ビーフトマトシチューなどを食べました。このレストランは、まるで石の洞窟のようなインテリアで、いつもと違った雰囲気でお食事は、みんなもまた格別だったのではないでしょう。日が暮れて園内の建物が次々とライトアップされ、待ちに待ったエレクトリカル・パレードがはじまりました。ミッキーやミニーマウスはもちろん、ほかのキャラクターたちを乗せたワゴンには、見事なイルミネーションで飾られ、踊ったり、手を振ってくれたり、煙を出したりを見ているみんなをワクワクさせてくれました。

その日の夜は、近くのホテルに泊まりました。みんなデイズニーランドの

夢をみたのでしょうか。

翌日は、デイズニーランドの外にある「ボン・ボヤージュ」というお店でそれぞれお土産を買い、葛西臨海公園内にある水族館に行きました。タカアシガニやサメやエイは、デイズニーランドに比べると、エキサイティングではなかったかも知れませんが、屋上にあがると、昨日楽しんだデイズニーランドが見えました。

今回のデイズニーツアーには、マルカートのメンバーのうち二名が参加できませんでした。次回来ることがあったら、今度は一緒に来たいねと話しながら、浜松への帰路に着きました。



小羊デイケアホーム

秋の伊勢路をゆく

一〇月九日、一〇日の一泊旅行は、利用者一八名、職員八名が参加し、伊勢志摩方面へ出かけました。一日め、ご家族の皆さんに見送られ、バスは、デイケアホームを後にしました。

なばなの里へは午前中に着き、グリアヤコスモスの花畑をぐるっと散策し、全員で写真を撮りました。相変わらず、みんなで一枚に収まるのは大騒ぎで、これがまた楽しいひとときでした。昼食は、はまぐり御膳という釜めしの定



食で、おなかいっぱいになりました。その後は、二見シーパラダイスへ向かいました。

小さな水族館でのお目当ては、アシカショーと、あかんべえアザラシとのふれあいでした。アシカは室内のプールで所狭しと滑ったり泳いだり、愛嬌をふりまいてくれました。あかんべえアザラシが二頭並んで、くりくりした目にヒレを当ててあっかんべえをする姿は、面白くて可愛らしいものでした。アザラシのあまりの大きさに泣きべそをかく利用者さんもいましたが、ふれあいOKということで、恐る恐る手を伸ばす利用者さんたちでした。

夕方着いたホテルは小高い丘の上の大きな建物でした。夕食までほんの少しのんびりし、さあごはん！張り切って宴会場へ。ひとりひとりお膳の前に座ってご馳走をいただきました。皆さんよく箸が進んでいたようです。もう一つのお楽しみのお風呂は、露天風呂もあって、ゆったりお湯に浸かって大満足。それぞれのお部屋で、夢心地の皆さんだったとか。

二日めは、パルケエスパニーヤ志摩スペイン村へ。入ってすぐの広場でキャラクターたちがお出迎えしてくれ、握手をしたり一緒に写真を撮ったり賑やかでした。園内を回る前に、みんなでミュージカルショーを観ました。軽快な音楽に乗ってリズムをとり楽しみましたね。二つのグループに分かれて回っ

た園内では、景色を見ながら歩き、アトラクションにも乗って、限られた時間の中で欲張ってあちこち行動できました。出かける前から、何度も話題になっていた絶叫マシンのジェットコースターに挑戦した方たちもいました。今回は、小遣いで買い物をして！と楽しみにして利用者さんが多く、お土産を手にしてニッコリ笑顔の利用者さんを見ることもできました。バスの中では恒例のアニメのビデオを観る時間もあり、皆さんは、たくさん思い出と満足感、心地よい疲労感を得ることができたのではないのでしょうか。

帰りは途中の休憩で時間が押ししてしまい、デイケアホームへの到着が遅れ、



ご心配をおかけしました。日程の件では、小羊学園の移転のため、一月には小羊学園青年寮の職員にお手伝いいただくのが難しいということがあって、前回より一ヶ月ほど早い時期の旅行になりましたが、結果的には、気候がよく動きやすかったと好評でした。ご家族の皆さん、ご協力ありがとうございました。

(「デイケア通信」輝いて……)より)



大胡のオジさん、天に召される

小羊学園の開園時の一三名の職員のうち、山浦園長ご夫妻と同じように、ご夫婦で働かれた大胡菊夫・静子さんご夫妻のことは、ご存知ない方も多いかも知れません。大胡静子さんは、主任保母として、また、定年前の三年間は青年寮の施設長をされました。大胡菊夫さんは、調理師として働かれ、おぞらの家（現在の聖隷おおぞら療育センター）が開園するときに、そちらの調理室に移って定年まで働かれ、その後必要に応じて給食の仕事をお手伝いいただきました。

私たちは、明るくてお喋り上手で存在感のある静子さんを「大胡先生」と呼び、物静かで控え目な、しかし包容力のある菊夫さんのことは「大胡のオジさん」と呼んできました。

二〇〇〇年一〇月三十一日、大胡先生が亡くなられてから八年間、オジさんは孤高の晩年をおくっておられました。高齢者施設に移られたあとの大胡さんの自宅をお借りしてはじめたのが「あゆみホーム」です。

最近はずいぶん体力が落ちてきているという話をお嬢様の朝子さんから聞いていましたが、十一月四日にオジさんは八九歳でお亡くなりになりました。遠州栄光教会で葬儀をしました。母の命日に合わせるのか、小羊学園が新し

い歩みをするのを見届けてから逝くのかと思っていました。父は小羊学園の新しい歩みを見届けてから、天に召されたのだと思っと思っています。というのは朝子さんの言葉です。

大胡のオジさんは、きっとこれからも私たちのあゆみを見守ってくださいているのだらうと思っっています。ご遺族の皆様には神さまの慰めがありますよう心よりお祈りいたします。



三方原スクエアの竣工式 二五〇名が集まりともに祝う

一〇月三十一日、小羊学園児童寮・青年寮の移転後の施設、三方原スクエアの竣工式をさせていただきました。週日にも拘わらず、お客様が約二二〇名、利用者のご家族と職員等を合わせて約二五〇名が集い、新しい施設の竣工をお祝いました。浜松市、地元自治会、浜松市手をつなぐ育成会から、ご祝辞をいただき、これからの三方原スクエアでの生活を充実したものになりたいと決意を新たにいたしました。

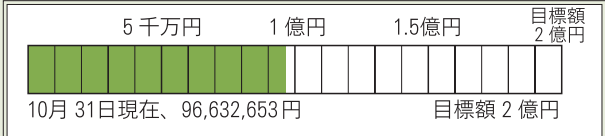
小羊学園を支える会

三方原スクエア建設へのご支援
ありがとうございました。

三方原スクエアでの生活は、これまでの入所施設での生活と大きく変わりました。先駆的な試みは皆さまのご理解とご協力によって支えられています。今後20年は借入金の返済をしていくこととなります。続けてご支援いただければ幸いです。

その他にも、障がいのある子とその家族を支える支援体制の構築、障がいの重い人でも安心して暮らせる地域ホーム(ケアホーム)の模索、生活感のある重症心身障害施設での支援のあり方の模索、知的障害のある人たちの高齢化への対応等々、小羊学園が積極的な事業展開をできるよう、皆さまのご支援をお願いいたします。

今年度いっぱい、三方原スクエア建設のための寄付金について帯グラフでの報告を継続します。



小羊学園への寄付金の振込先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

問い合わせ先：小羊学園事務センター
〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1
電話 053-420-0830

小羊学園クリスマス キャンドルサービスのご案内

今年も小羊学園では、遠州栄光教会の三方原会堂をお借りし、クリスマスのキャンドルサービスをいたします。クリスマス前の静かな夕べ、小羊学園の人たちと一緒に祝いしませんか。ご出席されます方はご連絡ください。

日時：十二月一日(金) 午後六時半～八時
場所：遠州栄光教会三方原会堂

電話：(〇五三) 四三七・五六三二
(聖隷三方原病院東二〇〇m)

お問い合わせ：小羊学園・三方原スクエア
電話 (〇五三) 四一四・一八三三

編集後記

三方原スクエアに引越して二週間です。入居者の皆さんは、思ったより落ち着いて生活しています。朝、それぞれのユニットの玄関を出て、コミュニティホールの玄関に「おはよう！」と通ってきます。夕方になると「さよなら」と帰っていきます。居住棟の各ユニットでの五人での食事、「静かな」という職員の感想です。でもそれが普通の生活なのだと思います。これから本当の変化が見られるのかも知れません。どうぞ、お近くにお越しの際はお訪ねください。言い尽くせない感謝、感謝の一年が終わりに近づいていきます。平安にお過ごし下さい。(I)